

玉名市立玉名中学校2年 堤 柚杏

私の祖父は、みかん農家だ。小さい頃から秋の収穫時期には、必ず手伝いに行っている。

ある日祖父の家に行くと、数か所あるみかん畑の中の一つの畑が、見たことのない景色に変わっていた。みかんの木が一本もなくなっていたのだ。びっくりして、

「じいちゃん、みかんの木どうしたと？」

と祖父にたずねると、

「みかんの木ば植え替えるみたい。ここにまた新しいみかんの木ば植えるけんね。四年たったらまたみかんがなるよ。」

と言った。

みかんの木にも寿命があって、四十年から五十年たつと、みかんの実がなる量が減ってきて、植え替えが必要になるそう。ということは、これから四年以上は、みかんの収穫量がかなり減るということになる。

心配になって、祖父に大変じゃないのかとたずねると、祖父の答えはこうだった。「うん。だけん、みかんの改植ばして収穫が出来るようになるまでの間、国からの補助があるとたい。」

「え？それって税金からってこと？」

「そうたい。」

驚いた。こういう所にも税金が使われていたんだと。

この税金からまかなわれる補助金のおかげで、祖父は大切なみかんの木が寿命をむかえても、また新しいみかんを育てる楽しみができる。そして、長い間みかん作りに精を出す祖父が生きがいを持つことにもつながるのだ。

この補助金を受けることができる畑には、それぞれ植えるみかんの品種が指定されているそう。だから、いろいろな品種を作る農家に分担されることによって、価格競争が少しは抑えられるというメリットもあるそう。

農家に給付される補助金には、他にも、農地を整理するためのものや、農機具を購入するためのものなどがあり、どれも農業を継続していくための大切な支援となっている。

私はこれまで、社会保障や教育に税金が使われていることを学んできた。働いている人が税金を納めることは当たり前だとしても、消費税が上がり、買い物をするたびに税金として支払うお金が増えるのはいやだなと思っていた。しかし、税金は思ってもみなかったところで私たちの生活を支えてくれている。それを知った私は、誇らしい義務を果たしているんだと感ずることができた。

高齢化が進み、農業をする人が減っていることは、日本の自給自足率を保つための大きな問題となっている。若い人が農業を引き継ぐ、または新しく始めるには、多くの経費がかかり、将来への不安にもつながっている。

私は将来農業にたずさわっていきたくて一人だ。祖父が大切に守ってきたみかん畑を引き継ぎ、未来に残していくために、税金は大切なものだと再認識させられた。